

## 病院年報（平成23年度）：国際保健医療科

### 1. 国際保健医療科の沿革と活動概要

国際保健医療科は、平成6年10月（1994年）に佐久総合病院の地域医療や農村医学研究の経験と成果を生かして、国際協力活動を進めるため設立された。1999年制定の病院理念と行動目標には、“中国ならびに途上国における国際保健医療協力”を掲げてあるが、中国での活動は、歴史的に国際農村医学会やアジア農村医学会を通じての活動による。国際保健医療科は、中国以外の途上国相手の活動が中心となっている。国際保健医療科の発足前後には、滞日外国人医療相談や、外国人 HIV・AIDS 患者の帰国支援を実施した。1997年—1999年には、国際保健医療協力の一つとして、出浦が JICA 専門家（チーフアドバイザー）としてガーナ保健人材育成プロジェクトに派遣され、途上国における医療協力のノウハウを学ぶことができ、その後の当科の活動の基礎となった。JICA 短期専門家としては、その後も、フィリピン、セネガル、ラオスなどに派遣され、JICA 保健医療プロジェクトに協力するとともに、後述するごとく多くの JICA 保健医療プロジェクトのカウンターパート研修にも協力している。1999年以降の国際保健医療科の主な活動として、途上国からの研修員受け入れによる地域保健研修を実施している。途上国での経験を踏まえた研修プログラムによる研修を開始した1999年から2011年現在まで、70カ国から799名の研修・視察者を受け入れた。研修員には、JICA 保健医療協力プロジェクトのカウンターパート研修や国別研修、分野別研修（保健医療）が多い。2008年、2009年、2011年には、農村保健研修センターでインドネシア青年研修事業を実施した。今後、研修フォローアップとして、インドネシア青年研修員らと、インドネシアにおける健康な村づくり活動を進めることを計画している。2010以降、JICA 事業仕分けや ODA 減額の影響を受けてか、研修受け入れ回数がやや減少した。海外協力活動としては、2001年より、国際協力機構（JICA）プロジェクトや JICA 全中と協力して、フィリピンルソン島北部のベンゲット州とマウンテン州において、八千穂村をモデルにした健康管理活動を実施した。本活動は、現在はプロジェクト期間を終了し、フォローアップを実施中であるが、ベンゲット州カパンガン地域で2010年に初めて乳児死亡率（IMR）ゼロを達成した。これまでの国際協力活動の成果と考え、現在その要因を検証中である。フィリピンでの活動は、研修フォローアップとして最初に実施されたものであり、研修とそのフォローアップを通じた国際協力モデルとして、成果を上げており、途上国における効果的な海外協力活動の参考になっている。現在、フィリピンでは、後述のような保健情報・教育訓練・地域サポートセンター（IECCSC）のコンセプトに基づく健康村づくりをさらに促進するプロジェクトを、ベンゲットカパンガンとマウンテン州パラセリスの保健センターで開始すべく準備中である。2005年より2007年まで、厚生労働省（国際医療センター）の国際医療協力研究班、“途上国における社会開発、地域保健システム強化に関する研究”として、日本（佐久穂町と須坂市）、フィリピン、ラオス、ベトナム、セネガルなどで主として保健ボランティア調査をおこなった。この調

査活動を踏まえて、2007年度より、ラオスの2県（ビエンチャン県、ウドムサイ県）の10地区約35村で、“保健ボランティア活動強化”と“健康村づくり”をコンセプトにした協力活動を実施している。ビエンチャン県では、プロジェクト対象となった25村のうち19村が、2011年までに政府によって“健康な村”に認証されている。ウドムサイ県でも10村中2村が健康村に認証された。この2県では、健康増進の日を設けて、佐久病院の病院祭にならった全県的な病院祭りも実施している。ラオスでの協力活動を進めるため、2008年から、毎年、北部ルアンプラバンでパートナーとの合同会議を実施しているが、2011年にはカンボジアからも参加者があり、カンボジア南部カンポット州で新たな“健康な村づくりプロジェクト”を開始した。

今後、途上国で健康な村づくりを進めるために、IECCSC（保健情報・教育研修・地域サポートセンター）というコンセプトを掲げて、このコンセプトに基づいて、保健センターや地域病院に設置する“IECCSC”を実行拠点として健康村づくり運動を進める予定である。このほか、2005年から長野スリランカ友好協会と連携し、スマトラ沖大地震支援活動として津波孤児の教育支援と健康診断を実施、2008年に、スリランカ保健省とも協力し、同国に中古医療機器供与した。この間に培ったネットワークを活用して、2009-2011年にかけて、同国のキャンディ県で、南アジア地域連合村（SAARC village）で、“友好の家：多目的コミュニティセンター”を建設し、日本の公民館活動をモデルにした“スリランカ政府のモデル村づくり”に協力している。友好の家プロジェクトは、スリランカ青少年大臣の協力も得て、25年の内戦が終わった北部でも、難民帰還支援活動として実施することを検討中である。1999年からの国際協力活動はアジアおよび国際農村医学会などでフィリピンのパートナーらと報告してきたが、2009年10月には、横浜で開催されたJA全中農協大会の国際協力セミナーにおいても、これまでの佐久病院の国際協力について、“農村医療と国際協力—交流から協力へ”というテーマで報告をおこなった。2011年より、JICA駒ヶ根研修所で派遣前研修中の青年海外協力隊員（JOCV）を対象にした“農村保健と国際協力”という名のボランティア講座を開催し、国際農村保健協力の経験を共有している。これまでの研修や海外協力活動は、地域保健システムと地域中核病院の役割、保健を通じた村づくり（Healthy Village Campaign）を中心テーマに掲げて実施し、研修員や国内外の研修関係者からは高い評価を受けてきた。今後は、佐久病院で研修をおこなった多くの途上国の研修員らと協力して、途上国における“IECCSCのコンセプトに基づく健康な村づくり”を目標に、SNSなど新しいメディアを活用したネットワークをつくり、それぞれの国々の経験を共有しながら、途上国における村づくり運動を展開する仕組みを作ることを目指した活動を進めたいと考えている。

（国際保健医療科：出浦）

2. ANNEX 参考資料

図1：年次別海外研修視察者（1999－2011年：799名）

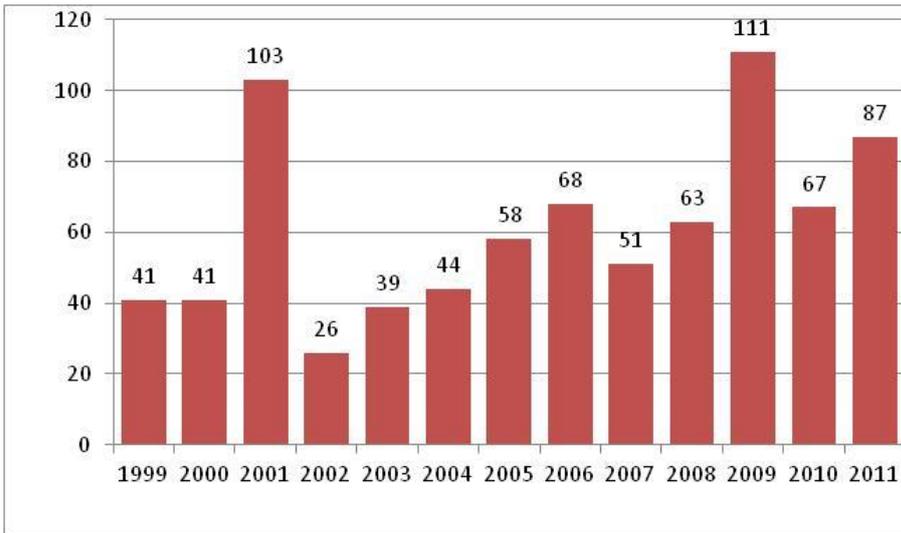


図2：研修視察者の地域別および関係機関別割合（70カ国より799名の研修視察者があった）

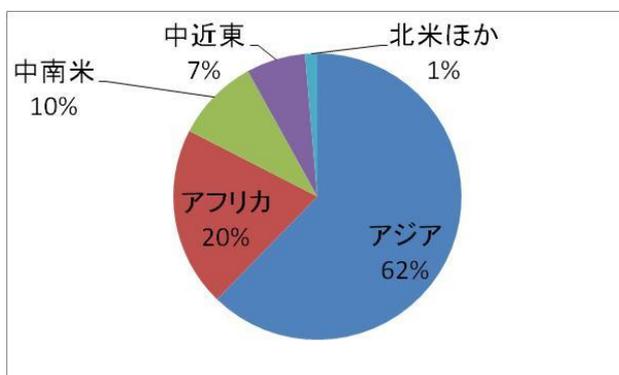
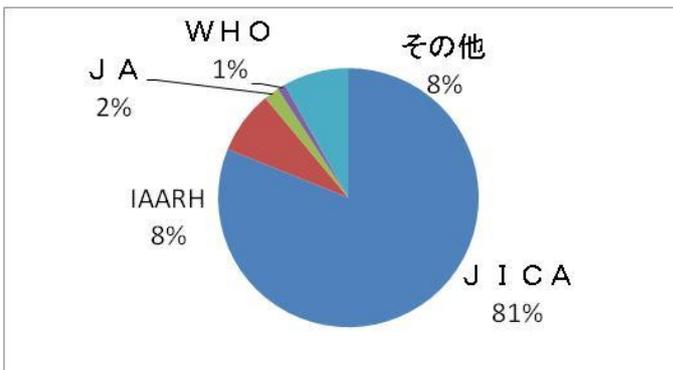


表1：地域・国別研修視察者数(1999年—2011年)

アジア・オセアニア		アフリカ		中南米		中近東		北米		国際機関
	人数		人数		人数		人数		人数	
中国	44	ガーナ	10	ブラジル	6	パキスタン	6	USA	10	WHO
フィリピン	74	ケニア	6	メキシコ	2	エジプト	9			
タイ	49	コートジボワール	12	ホンジュラス	7	シヨルダン	4			
中華民国	6	セネガル	22	ボリビア	19	パレスティナ	3			
韓国	17	タンザニア	2	パラグアイ	12	アフガニスタン	18			
ラオス	45	マリ	11	チリ	5	イラク	7			
インドネシア	114	ザンビア	10	ペルー	2	ウズベキスタン	1			
マレーシア	4	モリタニア	5	パナマ	2	イエメン	5			
インド	7	南アフリカ	1	ドミニカ	8					
バングラデシュ	14	ニジェール	7	コスタリカ	1					
ネパール	20	ブルキナファソ	13	キューバ	2					
ミャンマー	7	ギニア	6	ウルグアイ	1					
ベトナム	65	ルワンダ	1	セントクリストフ	1					
モンゴル	6	マラウイ	6	エクアドル	1					
カンボジア	8	セーシェル	2	グアテマラ	6					
パプアニューギニア	7	マダガスカル	7							
キルギス	3	カメルーン	3							
フィジー	1	ウガンダ	2							
キルギスタン	1	ガボン	1							
ブータン	3	サントメプリン	1							
ソロモン	1	チャド	1							
スリランカ	1	トーゴ	7							
		ジンバブエ	5							
		ベニン	7							
		コンゴ	14							
研修員	497		162		75		53		10	
国数	22カ国		25カ国		15カ国		8カ国		1カ国	
(総計)	(70カ国 + 1国際機関)									

(70カ国 1国際機関から合計799人：国籍不明1名、名古屋大学 YLP 等の国内教育機関からの外国人視察は除く)

写真1 (左)：フィリピンの健康管理活動プロジェクト (2002年～)

写真2 (右)：ラオスの健康村づくりプロジェクト (2007年～)



写真3 (左) : インドネシア青年研修事業 (2008年～、農村保健研修センター)

写真4 (右) : スリランカ“友好の家：南アジア地域連合村” 竣工 (2010年～)



写真5、6 : 乳児死亡率 IMR ゼロ (2010年) を達成したフィリピンベンゲット州カパンガンの Dr.ラルアン (左写真の右端：2001年の研修員) とスタッフ。右は、IECCSC を設置する予定の新しいカパンガン RHU (ヘルスセンター)。



写真7、8 : ラオスのルアンプラバン合同会議に参加したパートナーたち (2011年1月：左) とカンボジアカンポット州での健康村づくりプロジェクト合同会議 (2011年9月：右)

